

## 韓国における木造住宅の認識と直面する課題

### IV、韓国における木造住宅の課題

これまで韓国では、大規模な集合住宅開発および新都市建設として、画一化されたマンションタイプの集合住宅の大量供給を行ってきた。しかし、小規模団地および多様な住宅形態の需要が少しずつ増えてきており、近年の木造建築許可件数がわずかながら1,305件あった。言い換えれば、木造住宅ビジネスのチャンスは確実に増えつつある。

長い間に広く多く使われて来た木材であるが、様々な要因により、利用量が減った。今はコンクリートおよび鉄骨による大規模団地に、高層化された共同住宅の工法が主流である。しかし、木造住宅は他の建築構造より工事費を抑えられるうえ、間取りの多様さに加え見た目も美しく創作できるなど、消費者の多彩なニーズに柔軟に対応できる。また、省エネルギー性も優れている。もし、以下の課題をクリアすることができれば、木造住宅の推進につながるであろう。

- ・ 木造住宅の建築工程、部材、部品の標準化
- ・ 木造住宅の部材、部品の開発と生産拡大
- ・ 木造技術者の養成
- ・ 国産材を利用した、木造住宅に使える加工木材の研究、開発

住居の質の側面をみると、過去50余年間はコンクリート建物を基とした構造物の強度が重視された建築物が大多数であった。特に国内供給の木材が輸入材に依存され、木造建築物の新規建設はほとんどなかった。木造建築を推進するためには、建築資材としての木材に対する正確な認識および判断、ならびに木材の利用に対する効果的な方策の提示が求められている。

(本稿は大韓民国忠南大学校の金世彬教授、郭昶鎬博士からの原稿に基づき編集した。)